

どう猛なアフリカスイギュウ

アニマルフォトグラファー
トラベルライター

平 岩 雅 代

アフリカスイギュウは、どう猛な性質で知られています。怒らせたなら誰も止めることができないので、かつてハンターの間では「最も恐ろしいのは、ライオンでもゾウでもない。手負いのアフリカスイギュウだ」と言われていました。

体重が500～800キロ。ライオンのオスのおよそ3～4倍の重さです。ごく稀に空腹に耐えかねたライオンが、アフリカスイギュウを襲うケースがあります。しかし、一対一では、全く勝負になりません。最低でも4～5頭でかかりませんと、相手の動きを止めることすらできないのです。

アフリカスイギュウも必死に応戦し、角を振り回してライオンを追い払おうとしますが、対するライオンも全体重をかけて飛びかかり、何とかアフリカスイギュウを引き倒し、のどに噛みついて窒息させようとします。

大抵はライオンが締め、死闘は終わりますが、どちらにとっても大変な勝負であることに変わりありません。

アフリカスイギュウは仲間を思う気持ちがとても強く9危険が迫った時には、一致団結して仲間を守ろうとします。特に幼い子

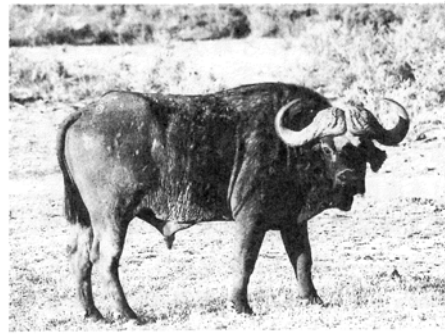


写真1 大きな角のアフリカスイギュウ

どもが襲われた時は、母親ばかりでなく、群れの大人たちも相手に敢然と向かっていきます。

アフリカスイギュウの特徴を最も良く表しているのは、“ナポレオンの帽子”のような形をした大きな角ですが、当然のことながら赤ちゃんには角がありません。成長するに従って、次第に小さな尖った“子鬼のような”角が左右離れて生え始め、額の上の部分が盛り上がるとともに毛が抜け、左右の角の根元がぴったりと密着し、立派な角になるのです。

私が今までにアフリカの草原で出会ったアフリカスイギュウは、ほとんどがオス、メス、幼獣が一緒にいる大群でしたが、たまに

は単独のオス、またはオスばかりの群れに会うこともあります。

赤道直下のケニア山を望み見るアバーディア山塊は、海拔が 2,000 メートルを超え、朝夕の厳しい冷え込みにはセーターが必要な程です。その水場で出会ったアフリカスイギュウが、まるで地中から湧き出るかのように、次から次へと集まってきました。そして思い思いの場所で水を飲んだり、岩塩をなめたりしていたのですが、突然一頭が水際に座り込み、苦しそうにあえぎ始めました。やがて破水、そして赤ちゃんの肢が見え、頭がのぞき、無事に産み落とされました。その間、時間にして20分位だったでしょうか。カメラのファインダーをのぞきながら思わず何度も、何度も「頑張って」「もう少し」と声援を送らずにはいられませんでした。

まだ“へその緒”がついたままの赤ちゃんはけん命に立ち上がろうとしますが、すぐ尻もちをつくように座り込み、また前肢に力を入れたと思ったら前のめりに倒れ、あ

ぶなかつしい感じでしたが、夕暮れ時にかかり、周囲が夜の闇に包み込まれそうになりますと、ハイエナなどの襲来を恐れた母親が、心配そうに産まれたばかりの赤ちゃんのお尻を鼻先で押し、立たせようと気をもみます。そしてとうとう赤ちゃんはヨロヨロと立ち上がり、一歩、また一歩、ゆっくり歩き出しました。そして新しい母子は森へ帰ってゆく群れについて、その場を静かに立ち去ったのでした。



写真 2 群れで行動するアフリカスイギュウ

〈アフリカスイギュウひとくちメモ〉

▶東アフリカ各国（ケニア、タンザニア、ウガンダなど）で話されている公用語のスワヒリ語で、アフリカスイギュウは「ニャティ」または「ムボゴ」と呼ばれている。

▶野生のアフリカスイギュウの妊娠期間はおよそ11か月。赤ちゃんの誕生時の体重は30キロ前後。寿命は約25年。

▶アフリカスイギュウは、アフリカ大陸のサハラ以南に広く分布しているが、特に東部・中部アフリカに多い。

●平岩道夫&雅代父娘写真展「アフリカ・ケニアとタンザニアの野生動物たち」開催（出品点数は合計1,700点）

4月29日（祝）から5月11日（火）までの連日、東京、市ヶ谷の「フォトスペース光陽」（JR市ヶ谷駅下車2分、江上料理学院前）で、平岩父娘写真展が開催されます。28年間に撮影した30万カットの中から、最新作100余点を大型カラー写真パネルで展示。初日の午後1時から駐日ケニア、タンザニア両国大使を迎えてオープニングパーティーも。入場無料。毎日午前10時から午後6時30分まで。（但し最終日は午後5時で終了）。会場道順の問合せは電話03-3316-6234番へ。